

小学校高学年の部

特選 自由図書部門

「夢中になれるもの」

揖斐川町立清水小学校六年

若原 蒼空

「投げなきや、何も戻ってこない。」

ブーメランの面白さを感じた父さんが一樹にかけた言葉だ。きつと「やってみないと何も変わらない。何かを始めたか、行動したりすることで何かが見つかるといふことを伝えたかったんだと思う。だって、一樹はブーメランに出あって少しづつ変わっていったから。

一樹は友だちとのおしゃべりや遊びをいやがるほどのめんどくさがりだ。でも、ブーメランに出あった時はちがった。自分でブーメランを作ったり、上手な人にお願いで教えてもらったりした。さらにクラブに入り、とうとう大会にも出場する。前の一樹からは考えられない行動力だ。ぼくも鉄棒に夢中になった時がそうだった。それまで本気で練習したことがなくて逆上がりさえもできなかった。でも連続逆上がりの時はちがった。絶対に成功させたくて毎日時間を見つけて何度も自主練習した。友だちをさそってアドバースをもらったり、父にもお願いしてできるまで練習につき合ってもらったりした。周りにも驚かれたが、ぼく自身も今までとちがう自分を感じていた。途中でくじけそうになっても、思い通りにならなくてもあきらめなかった。一樹もぼくも少しづつ変わったのだ。

考えてみると、今まで本気で取り組むことがほとんどなく、わりとあきらめてしまっていた。ぼくは、すぐに人と比べてできない自分に落ち込み、言い訳をして逃げていたんじゃないかと思う。そんなぼくが変われたのは、自分が夢中になれるものを見つけたからだ。やらなきやではなく、やりたいと思えるものを。だから、絶対成功させたいという思いが強かったし、前とはちがった考え方の自分に変わっていった。一樹もきつとそうだ。

「やったことがすぐに結果として戻ってくる人もいれば、ゆっくりゆっくり戻ってくる人もいる。」一樹の父さんの言葉がぼくの心にひびいた。手に豆ができて痛いのを我慢しながら練習を続けたのに失敗ばかりだった時、これ以上やっても無理かもとくじけそうになったが、一ヶ月がんばったらすらすらできるようになった。ぼくにはゆっくりゆっくり結果が戻ってきたということだ。あきらめなくて本当によかった。

大会でよい成績が残せなかった一樹。それを素直に受け止められなかったのは、自分の力を出し切れなかったからだと思う。思うような結果が出ないと悔しいが、結果がすべてじゃない。できるようにになりたいとくじけず努力したことで、一樹は変わった。たくさんの人に出会い、学び、助け合えるようになった。「やってみること」には自分を前に進める大きな力があることを一樹に教えてもらった。

ぼくはまた夢中になれるものを見つけた。「メニー・ハッピー・リターン。」ブーメラン愛好家の合い言葉で、たくさんの幸せが戻ってくるという意味である。どんどんやってみよう。何が戻ってくるのか、どんな自分に会えるのか、とつても楽しみだ。



山口 理 作
『リターン!』文研出版

主人公の一樹と自分の成長を重ねて書くことができました。一樹の考え方が変わったように、自分の物事への取り組み方が変わったことを客観的に捉えて書き上げることができました。これからも結果が戻って来ないときでも、ぶれない強い自分であり続けてください。

【講評】